

委員による評価の対象物質

【③強い遺伝毒性あり： 33物質】

※うち9物質は、WGでの議論は不要

個票の添付	番号	CAS/名称	遺伝毒性の評価(委員)				
			担当委員	エームス試験の不備の有無	遺伝毒性の評価(①~⑤、又は「評価保留」)	補足コメント	
●	64 S-0064	102-01-2 アセト酢酸アニリド	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
×	145 S-0145	123-73-9 trans-クロトンアルデヒド	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】この物質(2-ブテナール)が「がん原性指針」の対象物質となっているため、変異原物質としての指導は不要	WGでの議論は不要
●	592 S-0592	58421-55-9 ポリ[2-(クロロメチル)オキシラン-ait-メチレンジフェノール]	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	775 S-0775	75-91-2 tert-ブチル=ヒドロペルオキシド	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
×	806 S-0798	10588-01-9 ニクロム酸ナトリウム	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】重クロム酸の塩は特定化学物質(第2類物質、特別管理物質)として規制済みのため、変異原物質としての行政指導は不要	WGでの議論は不要
×	829 S-0821	818-61-1 アクリル酸2-ヒドロキシエチル	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】この物質は、変異原遺伝子により行政指導済み	WGでの議論は不要
●	830 S-0822	106-91-2 メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	荒木委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	6310 S-1284	78-76-2 ブロムブタン(別名:2-ブロモブタン)	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	【事務局参考情報】この物質の異性体(1-ブロモブタン)は、「がん原性指針」の対象物質	
●	6351 S-1325	87-66-1 トリヒドロキシベンゼン	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	E.coli WP2なし NTPのdata TA100 比活性1000以上	
●	6371 S-1345	89-63-4 4-クロロ-2-ニトロアニリン	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	E.coli WP2なし TA100 比活性1000以上 【事務局参考情報】この物質の異性体(2-クロロ-4-ニトロアニリン)は、変異原遺伝子による行政指導の対象物質	
●	6414 S-1388	95-55-6 o-アミノフェノール	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	E.coli WP2なし NTPのdata TA100 比活性1000以上	
×	6433 S-1407	98-07-7 ベンジリジン=トリクロリド	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	E.coli WP2なし TA100 比活性1000以上 【事務局コメント】ベンゾトリクロリドが特定化学物質(第1類物質:製造許可対象)として規制済みのため、変異原遺伝子による行政指導は不要	WGでの議論は不要
●	6439 S-1413	98-94-2 N,N-ジメチルシクロヘキシルアミン	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	in vivo CA陽性	
●	6462 S-1436	101-54-2 N-フェニル-1,4-フェニレンジアミン	太田委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	CA陽性 D20=0.01mg/ml以下	
●	6464 S-1438	101-72-4 1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン	太田委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	CA陽性 D20=0.01mg/ml以下	
●	6724 S-1698	366-18-7 2,2'-Bipyridyl	清水委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり		
●	6819 S-1793	614-45-9 tert-ブチル=ペルオキシ安息香酸	清水委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	6895 S-1869	1067-33-0 ジブチルスズ二酢酸	清水委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		

●	6962	S-1936	1338-23-4	エチルメチルケトンペ ルオキシド	清水委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	7030	S-2004	2210-79-9	トリルグリシジルエー テル	清水委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	7056	S-2030	2489-77-2	トリメチルチオ尿素	清水委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	7091	S-2065	2675-77-6	ジクロロハイドロキノ ンジメチルエーテル	清水委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり		
×	7187	S-2161	4170-30-3	ブター-2-エナール	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】 この物質(2-ブテナール)が 「がん原性指針」の対象物質と なっているため、変異原物質と しての行政指導は不要	WGでの議論は不要
●	7269	S-2243	6428-31-5	ジナトリウム=4-アミ ノ-3, 6-ビス(4- [(2, 4-ジアミノフェ ニル)ジアゼニル]フェ ニル)ジアゼニル)-5 -ヒドロキシナフタレン -2, 7-ジスルホ ナート	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	小核陽性	
×	7334	S-2308	7778-50-9	ヘプタオキシドクロ ム酸ニカルウム	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	Ames, Ca陽性 【事務局コメント】 重クロム酸の塩は特定化学物 質(第2類物質、特別管理物 質)として規制済みのため、変 異原物質としての行政指導は 不要	WGでの議論は不要
●	7352	S-2326	7803-55-6	メタバナジン酸アンモ ニウム	本間委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	Amesなし、小核陽性	
●	7475	S-2449	11099-03-9	ソルベントブラック-5	本間委員	▲(不備あり)	③強い遺伝毒性あり	TA100, TA98のみ	
×	7581	S-2555	13765-19-0	クロム酸カルシウム	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】 クロム酸の塩は特定化学物質 (第2類物質、特別管理物質) として規制済みのため、変異 原物質としての行政指導は不 要	WGでの議論は不要
●	9131	S-4093	75-87-6	トリクロロアセトアルデ ヒド	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		
●	9140	S-4102	156-43-4	p-フェネチジン	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	小核陽性	
×	9216	S-4171	2451-62-9	1, 3, 5-トリリス(2, 3 -エポキシプロピル) -1, 3, 5-トリアジン -2, 4, 6-(1H, 3H, 5H)-トリオン	本間委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】 この物質は、変異原通達によ り行政指導済み	WGでの議論は不要
×	9306	S-4248	91-97-4	3, 3'-ジメチルピフェ ニル-4, 4'-ジイル =ジイソシアネート	山田委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり	【事務局コメント】 この物質(3, 3'-ジメチル-4, 4'-ピフェニレンジイソシア ネート)は、変異原通達により 行政指導済み	WGでの議論は不要
●	9345	S-4287	80-15-9	1-メチル-1-フェニ ルエチル=ヒドロペル オキシド	山田委員	-(不備なし)	③強い遺伝毒性あり		

通し番号	S-0064
整理番号	
MITI番号	3-110
CAS番号	102-01-2
公示名称	アセト酢酸アニリド
和名	アセト酢酸アニリド
英名	Acetoacetanilide
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive(1)	Positive(1)	Positive	比活性値 1240 revertants/mg	WP2uvrA/pKM101(±S9)でPositive。
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98、WP2uvrA/pKM101		1.22 - 5,000 ug/plate	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	厚生労働省 変異原性(エームス)試験			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Negative	Negative	Negative		TA97(-S9)のみEquivocal
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA97、TA98		100 - 10,000 mg/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1983		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 582092			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHL/IU		(短時間処理) ±S9 0.6 - 1.8 (連続処理) 0.3 - max 1.8 mg/mL	Dehydrated DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	厚生労働省 染色体異常試験			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-0592
整理番号	
MITI番号	
CAS番号	58421-55-9
公示名称	
和名	ポリ[2-(クロロメチル)オキシラン-alt-メチレンジフェノール]
英名	Poly[2-(chloromethyl)oxirane-alt-methylenediphenol]
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive(3)	Positive(4)	Positive	比活性値 5080 revertants/mg	TA1537(±S9)、TA98(+S9)でNegative
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA98、TA1537、WP2uvrA		0.305 - max 10,000 ug/plate	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	厚生労働省 変異原性(エームス)試験			二次文献

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Positive	Positive	Positive	D20値 0.0095 mg/mL	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHL/IU		(短時間処理) ±S9 0.05 - 0.4 (連続処理) 0.0026 - 0.1 mg/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	厚生労働省 染色体異常試験			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-0775
整理番号	
MITI番号	2-224
CAS番号	75-91-2
公示名称	t-アルキル(C4~8)ヒドロペルオキシド
和名	tert-ブチル=ヒドロペルオキシド
英名	Hydroperoxide, tert-butyl-
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive(2)/Equivocal	Positive(2)/Equivocal	Positive		TA100(±S9)、TA1537(±S9)でPositiveとEquivocal、TA98(±S9)でEquivocal
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		3.3 - 333 ug/plate	water	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1980		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 603477			二次文献
試験結果					
試験の種類	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Positive	Positive	Positive	D20値 0.0043 mg/mL	
染色体異常試験(1)	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		(Harvest Time: 10.5 h) -S9 8 - 10.1 +S9 24.8 - 100.2 ug/mL		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1983		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics Study ID: 389785_CA			二次文献
	試験結果				
試験の種類	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Positive	Positive	Positive		
in vitro その他(1) 姉妹染色分体交換試験	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 1 - 7 +S9 15.9 - 19.9 ug/mL		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1983		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics Study ID: 389785_SCE			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-0822
整理番号	
MITI番号	2-1041
CAS番号	106-91-2
公示名称	メタクリル酸グリシジル
和名	オキシラン-2-イルメチル=メタクリラート
英名	Oxiran-2-ylmethyl methacrylate
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive(3)	Positive(3)	Positive	比活性値 8,800 revertants/mg	TA10(±S9)、TA1535(±S9)、TA97(±S9)でPositive。
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA97、TA98		10 - 1,000 ug/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 570334			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1284
整理番号	
MITI番号	2-74
CAS番号	78-76-2
公示名称	ブロムブタン
和名	ブロムブタン
英名	2-bromobutane
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	-	-	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535				
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
					data not shown
	一次文献	V F. Simmon, K.Kauhanen, R G. Tardiff "Mutagenic Activity of Chemicaks Identified in Drinking Water" Dev Toxicol Environ Sci 2: 249-58 (1977)			二次文献
					HSDB

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1325
整理番号	
MITI番号	3-554
CAS番号	87-66-1
公示名称	トリヒドロキシベンゼン
和名	トリヒドロキシベンゼン
英名	Pyrogallol
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
小核試験 (1)	Male: Equivocal; Female: Negative;	B6C3F1 Mouse/Peripheral Blood	Dermal	38-600 mg/kg	Dermal x 90, 90 day
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	2004		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Micronucleus Study ID: A51963			二次文献
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
小核試験 (2)	Male: Negative;	B6C3F1 Mouse/Bone Marrow	Intraperito neal Injection	39-2,500 mg/kg	Intraperitoneal Injection x 3, 72 hour
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1999		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Micronucleus Study ID: A76126			二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive (1)	Positive	Positive		活性: eColi pKM101のみPositive TA100, TA98はEquivocal
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100, TA98, eColi pKM101		10-1,000 ug/plate	Water	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	2006		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology – Bacterial Mutagenicity Study ID: A98424			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Positive (1)	Positive (1)	Positive		活性、非活性: TA100 Positive TA98 Negative
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100, TA98		3-333 ug/plate	Water	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	2000		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology – Bacterial Mutagenicity Study ID: A22702			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1345
整理番号	
MITI番号	3-407
CAS番号	89-63-4
公示名称	クロロ-ニトロ-アニリン
和名	4-クロロ-2-ニトロアニリン
英名	4-Chloro-2-nitroaniline
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (1)	Equivocal(1)	Positive(2)	Positive	比活性値 6,100 revertants/mg	TA100(+S9)でEquivocalとPositive、 TA98(-S9)でEquivocal、TA98(+S9)で Positive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、 TA1537、TA98		3.3 - 1,000 ug/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 790805			二次文献

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常 試験(1)	Positive	Negative	Positive	D20値 0.17 mg/mL	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		(Harvest Time: 20 h) -S9 151 - 302 +S9 252 - 351 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics Study ID: 908592_CA			二次文献

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1)	Weakly Positive	Positive	Positive		
姉妹染色分体交換試験	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 18 - 25 +S9 252 - 351 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics Study ID: 908592_SCE			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2)	Positive	Positive	Positive		-S9の4回のtrialうち、2回 Inconclusive、2回 Positive
マウスリンフォーマ試験	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	L5178Y tk+/tk- MLC		-S9 2.5 - max 100 +S9 0.125 - max 4 ug/mL	Acetone	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
			NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Mutagenicity Study ID: 971790			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1388
整理番号	
MITI番号	3-675
CAS番号	95-55-6
公示名称	アミノフェノール
和名	o-アミノフェノール
英名	2-aminophenol
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (1)	Positive(1)	Positive(1)	Positive		TA100(±S9)のみPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		10 - 3,333 ug/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1980		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 623472			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (2)	Positive(1)	Positive(1)	Positive		TA100(±S9)のみPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		10 - max 750 ug/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1980		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 523472			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (3)	Equivocal(1)	Equivocal(1)	Weakly Positive		TA100(±S9)のみEquivocal。その他はNegative
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		10 - 10,000 ug/plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1980		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity Study ID: 028472			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1413
整理番号	
MITI番号	3-2274
CAS番号	98-94-2
公示名称	N-アルキル(C1~4)-N-アルキル(C1~4)シクロヘキシルアミン
和名	N, N-ジメチルシクロヘキシルアミン
英名	Cyclohexylamine, N,N-dimethyl-
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他(1)	Positive	rat, bone marrow	inhalation	0.001、0.014、0.092 mg/L	4 month
染色体異常試験	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
					invalid study (IUCLID(2000))
	一次文献	Smirnova E.S "Toxic properties of dimethylcyclohexylamine" (1984) Gigiena truda i professional'nye zabolevaniia, 5, 54-55			二次文献 IUCLID(2000)

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	-	-	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	入手不可: Abbott Lab.: Polycat Catalysis, Physical Properties & Handling Data, P-101			二次文献 IUCLID(2000)

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1436
整理番号	
MITI番号	3-134
CAS番号	101-54-2
公示名称	4-アミノジフェニルアミン
和名	N-フェニル-1,4-フェニレンジアミン
英名	N-Phenyl-1,4-phenylenediamine
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0-3,333 ug/Plate	95% Ethanol	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1981		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 231064			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Positive	Positive	Positive	D20値 0.0062 mg/mL	-S9 2.5-10 ug/mLでpositive、0.5-10 ug/mLではQuestionable
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 2.5-10 ug/mL +S9 10-75 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 887002_CA			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1)	Positive	Positive	Positive		-S9 0.5-4 ug/mLでPositive、-S9 0.16-5 ug/mLでWeakly Positive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.16-max5 ug/mL +S9 5-500 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 887002_SCE			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2)	-	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	L5178Y		-S9 0.25-max4 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
			Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Mutagenicity ID: 867606			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1438
整理番号	
MITI番号	3-136
CAS番号	101-72-4
公示名称	N-アルキル(C3~9)-N'-フェニル-p-フェニレンジアミン
和名	1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノ-ベンゼン
英名	p-Phenylenediamine, N-(1-methylethyl)-N'-phenyl-
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (1)	Equivocal (1)	Equivocal (1)	Negative		活性、非活性: TA1535 Equivocal
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、 TA1537、TA98		0-1,000 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 011445			二次文献
エームス試験 (2)	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、 WP2uvrA、TA98、 TA1537、TA1538		1-max1,000 ug/Plate	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
一次文献	厚労省 微生物を用いた変異原性試験 (エームス試験)			二次文献	
エームス試験 (3)	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA98、 TA1537、WP2uvrA		-S9 2.44-max313 ug/Plate +S9 9.77-313 ug/Plate	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
2001	三菱化学 (株)				
一次文献	(株)三菱化学安全化学研究所 N-フェニル-N'-イソプロピル-p- フェニレンジアミンの細菌を用いる復帰突然変異試験 試験番 号 B010046			二次文献	
染色体異常 試験 (1)	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Positive	Positive	Positive	D20値 0.019 mg/mL	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 1.6-max10 ug/mL +S9 10-50 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
1986		Standard NTP Protocol			
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 042763_CA			二次文献	

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(2)	Equivocal	Positive	Positive	D20値 0.0014 mg/mL	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHL/IU		24時間処理法: 0.5-4 ug/mL 短時間処理法: -S9mix 0.25-max6 ug/mL、 +S9mix 1-max16 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	2002	三菱化学(株)			
一次文献	(株)三菱化学安全化学研究所 N-フェニル-N'-イソプロピル-p-フェニレンジアミンのほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 試験番号 B010047			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) 姉妹染色分体交換試験	Weakly Positive	Positive	Positive		-S9 1-5 ug/mLでPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.05-max5 ug/mL +S9 0.5-50 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1986		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 042763_SCE			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

変異原性試験結果

通し番号	S-1698
整理番号	
MITI番号	5-3723
CAS番号	366-18-7
公示名称	2, 2' (又は4, 4')-ピピリジル
和名	2, 2' -ピピリジル
英名	2,2'-Bipyridyl
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive	Positive(moderate degree)	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100		20 ug/plate	H2O	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1980	Department of Food and Nutrition, Yamaguchi Women's University, Yamaguchi, Yamaguchi 753, Japan			
	一次文献	YAMAGUCHI T; AGRIC BIOL CHEM 45 (1): 327 (1981); Mutagenicity of Low Molecular Substances in Various Superoxide Generating Systems			二次文献
					HSDB

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1793
整理番号	
MITI番号	3-1348
CAS番号	614-45-9
公示名称	第三級アルキル(C4~8)過安息香酸エステル
和名	tert-ブチル=ペルオキシ安息香酸
英名	tert-Butyl peroxybenzoate
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
小核試験 (1)	Negative (Male、 Female)	B6C3F1 Mouse Male、 Female/NCE Peripheral Blood	Gavage	30-500 mg/kg	Gavage x 65, 90 day
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1993				
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Micronucleus ID: A96924			二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive (3)	Positive (1)	Positive		活性: TA100、TA1535、TA98 Positive 非活性: TA98のみPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、 TA1537、TA98		0-333 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 923771			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Positive	Positive	Positive	D20値 0.0052 mg/mL	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 5-10 ug/mL +S9 10-100 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
1984-1985					
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 096324_CA			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
	Negative	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.16-max16 ug/mL +S9 0.5-max50 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
1984					
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 096324_SCE			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1869
整理番号	
MITI番号	2-2330
CAS番号	1067-33-0
公示名称	ジブチルスズジ脂肪族モノカルボン酸(C2~31)塩
和名	ジブチルスズ二酢酸
英名	Dibutyltin di(acetate)
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0-3,333 ug/Plate	Water	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 834817			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Positive	Positive	Positive	D20値 0.00026 mg/mL	非活性:0.124-0.21 ug/mLでPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.049-max0.21 ug/mL +S9 0.702-1 ug/mL	Ethanol	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 092968_CA			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) 姉妹染色分体交換試験	Weakly Positive	Negative	Weakly Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.1-0.25 ug/mL +S9 0.433-max4.33 ug/mL	Ethanol	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 092968_SCE			二次文献	

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2) マウスリン フォーマTK 試験	-	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度		試験手法
	L5178Y		-S9 0.02-max0.08 ug/mL		Ethanol
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology – Mammalian Cell Mutagenicity ID: 881018			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-1936
整理番号	
MITI番号	5-667
CAS番号	1338-23-4
公示名称	アルキル(C1~5)メチルケトンペルオキシド
和名	エチルメチルケトンペルオキシド
英名	2-Butanone, peroxide
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験 (1)	Negative (Male、 Female)	B6C3F1 Mouse/Peripheral Blood	Dermal	0.357-3.57 mg	Dermal x 65, 13 week
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1993				
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Micronucleus ID: A70805			二次文献	

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Poitive (2)	Poitive	Poitive		活性: TA102、TA104 Positive 非活性:TA104のみPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA102、TA104、TA97		0-1,000 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1992		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 784039			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Equivocal (1)	Negative	Negative		活性: TA100のみEquivocal
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0-333 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1981		Standard NTP Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 594981			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Weakly Positive	Poitive	Poitive	D20値 0.053 mg/mL	非活性: 20-50 ug/mLでPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 1.6-max50 ug/mL +S9 16-75 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 774268_CA			二次文献	

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) 姉妹染色分体交換試験	Weakly Positive	Positive	Positive		非活性: 2-20 ug/mLでPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 0.5-max50 ug/mL +S9 1.6-max160 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 774268_SCE			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2) マウスリンフォーマTK試験	-	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	L5178Y		-S9 0.625-10 ug/mL	Ethanol	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Mutagenicity ID: 091264			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2004
整理番号	
MITI番号	3-574,3-594
CAS番号	2210-79-9
公示名称	トリルグリシジルエーテル
和名	トリルグリシジルエーテル
英名	Oxirane, [(2-methylphenoxy)methyl]-
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Weakly Positive (1)	Positive (2)	Positive	比活性値 6,900 Revertants/mg	非活性: TA100、TA1535 Positive 活性: TA100 Weakly Positive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0-max667 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1985		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 141757			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2030
整理番号	
MITI番号	2-1766
CAS番号	2489-77-2
公示名称	トリアルキル(C1~4)チオ尿素
和名	トリメチルチオ尿素
英名	Trimethyl-2-thiourea
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0-10,000 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1982		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 526337			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		-S9 80-100 ug/mL +S9 30-100 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 652396_CA			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(2)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		±S9 270-1,250 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1990				
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 724688_CA			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) 姉妹染色分体交換試験	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO		±S9 125-1,250 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1990				
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Cytogenetics ID: 724688_SCE			二次文献

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2) マウスリンフォーマTK試験	Negative and Non-Toxic	Positive	Positive		非活性: 誤:Negative and Non-Toxic 正:Positive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	L5178Y		-S9 1,800-5,000 ug/mL +S9 200-1,000 ug/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Mammalian Cell Mutagenicity ID: 360906			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2065
整理番号	
MITI番号	3-955
CAS番号	2675-77-6
公示名称	ジクロロハイドロキノンジメチルエーテル
和名	ジクロロハイドロキノンジメチルエーテル
英名	Chloroneb
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive (1)	Negative	Positive		活性: TA100のみPositive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA98		0-667 ug/Plate	Acetone	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1986		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 510273			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2243
整理番号	
MITI番号	5-1367
CAS番号	6428-31-5
公示名称	ダイレクト ブラック-19
和名	ジナトリウム=4-アミノ-3,6-ビス({4-[(2,4-ジアミノフェニル)ジアゼニル]フェニル}ジアゼニル)-5-ヒドロキシナフタレン-2,7-ジスルホナート
英名	Disodium 4-amino-3,6-bis({4-[(2,4-diaminophenyl)diazenyl]phenyl}diazenyl)-5-hydroxynaphthalene-2,7-disulfonate
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験 (1)	Positive	マウス BALB/c(male)/bone marrow	i.p injection	16.66-1,350 mg/kg	2 injections/24 hr interval. Sampling time: 30 hr after the first injection
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1987				
一次文献	Przybojewska B et al., (1988) Mutagenic activity of some textile dyes in different test systems, Toxicology Letters			二次文献	HSDB
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他(1)	Negative	マウスBALB/c(male)/	i.p injection	20, 50mg/kg	single injection dose period: 5 days (before mating)
優勢致死試験	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1987				
	一次文献	Przybojewska B et al., (1988) Mutagenic activity of some textile dyes in different test systems, Toxicology Letters			二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive	Negative	Positive		Positive: TA1537, TA98
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA1535、TA1537、TA1538、TA98、TA100		5-2,500 ug/plate	蒸留水	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1987				
一次文献	Przybojewska B et al., (1988) Mutagenic activity of some textile dyes in different test systems, Toxicology Letters			二次文献	HSDB
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Positive	Negative	Positive		Positive: TA1538, TA98 Dithionite reduction increase the mutagenic acitivity.
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA1535、TA1537、TA1538、TA98、TA100、TA1537、TA1538、TA98、TA100		up to 500 nmol/plate	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1984				
一次文献	Joachim F et al. (1985) Mutagenicity of azo dyes in the Salmonella/microsome assay using in vitro and in vivo activation.			二次文献	HSDB

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2326
整理番号	
MITI番号	1-407
CAS番号	7803-55-6
公示名称	メタバナジン酸アンモニウム
和名	メタバナジン酸アンモニウム
英名	Ammonium trioxovanadate
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験 (1)	Positive	Mouse(CDI)/bone marrow	Intragastric intubation	50 mg/kg	Single dosage Sampling time: 6, 12, 18, 24, 30, 36, 42, 48, 72 h after treatment
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1994				
一次文献	Ciranni R (1995) Vanadium salts induce cytogenetic effects in vitro treated mice、Mutation Research、(1)53-			二次文献	環境省 環境リスク初期評価(11巻) [バナジウムおよびその塩]
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他(1)	Positive	Mouse(CDI)/bone marrow	Intragastric intubation	50 mg/kg	Single dosage Sampling time: 24, 36 hrs
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1994				以上は異数性に限定
一次文献	Ciranni R (1995) Vanadium salts induce cytogenetic effects in vitro treated mice、Mutation Research、(1)53-			二次文献	環境省 環境リスク初期評価(11巻) [バナジウムおよびその塩]

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	ND	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	培養ヒト末梢血リンパ細胞		2.5-160 uM		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1993				
	一次文献	Migliore L, (1993) Cytogenetic damage induced in human lymphocytes by four vanadium compounds and micronucleus analysis is by gluorescence in situ hybridizatiion with a centrometric probe			二次文献 環境省 環境リスク初期評価(11巻) [バナジウムおよびその塩]
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(2)	Positive	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHO-K1-BH4		4-16 ug/mL	Eagle's basal medium	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1990				
	一次文献	Owusu-Yaw, J (1990) An assessment of the genotoxicity of vanadium、Toxicology Letters 50, (2,3)、327-336			二次文献 環境省 環境リスク初期評価(11巻) [バナジウムおよびその塩]
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) Rec試験	-	-	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	Bacilus subtilis		0.3 M	蒸留水	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1979				
	一次文献	Kanematsu, N., M. Hara and T. Kada (1980): Rec assay and mutagenicity studies on metal compounds. Mutat. Res. 77: 109-116.			二次文献 環境省 環境リスク初期評価(11巻)

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2) 姉妹染色分体交換試験	-	-	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	培養ヒト末梢血リンパ細胞		2.5-160 uM		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1993				
一次文献	Migliore L, (1993) Cytogenetic damage induced in human lymphocytes by four vanadium compounds and micronucleus analysis is by gluorescence in situ hybridizatiion with a centrometric probe			二次文献	環境省 環境リスク初期評価(11巻)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(3) 姉妹染色分体交換試験	Positive	Positive	Positive		FALSE
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	Migliore L, (1993) Cytogenetic damage induced in human lymphocytes by four vanadium compounds and micronucleus analysis is by gluorescence in situ hybridizatiion with a centrometric probe		0.5-4.0ug V/mL	Eagle's basal medium	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1990				
一次文献	Owusu-Yaw, J (1990) An assessment of the genotoxicity of vanadium、Toxicology Letters 50, (2,3)、327-336			二次文献	環境省 環境リスク初期評価(11巻)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(4) 小核試験	ND	Positive	Positive		FISH (Fluorescence in situ hybridization)
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	培養ヒト末梢血リンパ細胞		2.5-160 uM		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1993				
一次文献	Migliore L, (1993) Cytogenetic damage induced in human lymphocytes by four vanadium compounds and micronucleus analysis is by gluorescence in situ hybridizatiion with a centrometric probe			二次文献	環境省 環境リスク初期評価(11巻) [バナジウムおよびその塩]

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す
 ※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-2449
整理番号	
MITI番号	5-3142
CAS番号	11099-03-9
公示名称	ソルベント ブラック-5
和名	ソルベントブラック-5
英名	C.I. Solvent Black 5
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
-					
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献				二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive (1)	Negative	Positive	比活性値 12,000 Revertants/mg	活性: TA98 Positive
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA98		0-6,666 ug/Plate	DMSO	Preincubation
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1985		Standard NTP Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity ID: 203446			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-4093
整理番号	
MITI番号	2-528
CAS番号	75-87-6
公示名称	トリクロロアセトアルデヒド
和名	トリクロロアセトアルデヒド
英名	Chloral
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
小核試験(1)	negative	マウス雌 骨髄細胞	腹腔内	2,500 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	5回
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Bruce, W.R. and Heddle, J.A. (1979) The mutagenic activity of 61 agents as determined by the micronucleus, Salmonella, and sperm abnormality assays. Can. J. Genet. Cytol., 21, 319-334.			二次文献
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
小核試験(2)	positive	マウス 骨髄赤芽球	腹腔内	83 mg/kg(抱水クロラ ールとしての値)	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Russo, A. and Levis, A.J. (1992a) Detection of aneuploidy in male germ cells of mice by means of a meiotic micronucleus assay. Mutat. Res., 281, 187-191.			二次文献
試験の種類	結果	試験条件			投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
		動物種/組織	ばく露経路	投与量	
小核試験(3)	negative	マウス雄 骨髄赤芽球	腹腔内	400 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Leopardi, P., Zijno, A., Bassani, B. et al. (1993) In vivo studies on chemically induced aneuploidy in mouse somatic and germinal cells. Mutat. Res., 287, 119-130.			二次文献

試験の種類	結果	試験条件			
		動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験(4)	positive	マウス雄 精子細胞	腹腔内	83 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	移動期、分裂中期処理
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Russo, A. and Levis, A.J. (1992a) Detection of aneuploidy in male germ cells of mice by means of a meiotic micronucleus assay. Mutat. Res., 281, 187-191.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	結果	試験条件			
		動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験(5)	positive	マウス雄 精子細胞	腹腔内	41、83、165 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	精原細胞、前細糸期精母細胞処理
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Allen, J.W., Collins, B.W. and Evansky, P.A. (1994) Spermatid micronucleus analysis of trichloroethylene and chloral hydrate in mice. Mutat. Res., 323, 81-88.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	結果	試験結果			
		動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他(1) 染色体異常試験(構造異常)(1)	negative	マウス雌雄、 骨髄細胞	腹腔内	500 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Xu, W. and Adler, I.D.(1990) Clastogenic effects of known and suspect spindle poisons studied by chromosome analysis in mouse bone marrow cells. Mutagenesis, 5, 371-374.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	結果	試験結果			
		動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他(2) 染色体異常試験(構造異常)(2)	positive	マウス雄、 第2精母細胞	腹腔内	82.7 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Russo, A., Pacchierotti, F. and Metalli, P. (1984) Nondisjunction induced in mouse spermatogenesis by chloral hydrate, a metabolite of trichloroethylene. Environ. Mutagen., 6, 695-703.			二次文献 初期リスク評価書(2005)

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (3)	negative	マウス雄 精母細胞	腹腔内	83 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
染色体異常試験 (構造異常) (3)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Russo, A. and Levis, A.J. (1992a) Detection of aneuploidy in male germ cells of mice by means of a meiotic micronucleus assay. <i>Mutat. Res.</i> , 281, 187-191.			二次文献 初期リスク評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (4)	negative	マウス雄 精母細胞	腹腔内	413 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
染色体異常試験 (構造異常) (4)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Liang, J.C. and Pacchierotti, F. (1988) Cytogenetic investigations of chemically-induced aneuploidy in mouse spermatocytes. <i>Mutat. Res.</i> , 201, 325-335.			二次文献 初期リスク評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (5)	positive	マウス雄 骨髄赤芽球	腹腔内	200 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(1)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Gudi, R., Xu, J. and Thilagar, A. (1992) Assessment of the in vivo aneuploidy/micronucleus assay in mouse bone marrow cells with 16 chemicals. <i>Environ. Mol. Mutagen.</i> , 20, 106-116.			二次文献 初期リスク評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (6)	positive	マウスF1 雄 第2精母細胞	腹腔内	400 mg/kg(抱水クロラールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(2)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Leopardi, P., Zijno, A., Bassani, B. et al. (1993) In vivo studies on chemically induced aneuploidy in mouse somatic and germinal cells. <i>Mutat. Res.</i> , 287, 119-130.			二次文献 初期リスク評価書 (2005)

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (7)	positive	マウスF1 雄 第2精母細胞	腹腔内	82.7 mg/kg(抱水クロ ラルールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(3)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Russo, A., Pacchierotti, F. and Metalli, P. (1984) Nondisjunction induced in mouse spermatogenesis by chloral hydrate, a metabolite of trichoroethylene. Environ. Mutagen., 6, 695-703.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (8)	weakly positive	マウスF1 雄 第2精母細胞	腹腔内 パキテン期 精原細胞処 理	165 mg/kg(抱水クロ ラルールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(4)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Liang, J.C. and Pacchierotti, F. (1988) Cytogenetic investigations of chemically-induced aneuploidy in mouse spermatocytes. Mutat. Res., 201, 325-335.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (9)	positive	マウスF1 雄 第2精母細胞	腹腔内	200 mg/kg(抱水クロ ラルールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(5)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Miller, B.M. and Adler, I.D. (1992) Aneuploidy induction in mouse spermatocytes. Mutagenesis, 7, 69-76.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
in vivo その他 (10)	negative	マウスF1 雄 第2精母細胞	腹腔内	400 mg/kg(抱水クロ ラルールとしての値)	
染色体異常 (異数性)(6)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Leopardi, P., Zijno, A., Bassani, B. et al. (1993) In vivo studies on chemically induced aneuploidy in mouse somatic and germinal cells. Mutat. Res., 287, 119-130.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
in vivo その他 (11)	negative	マウス雌 卵母細胞	腹腔内	600 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	
染色体異常 (異数性)(7)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Mailhes, J.B., Aardema, M.J. and Marchette, F. (1993) Investigation of aneuploidy induction in mouse oocytes following exposure to vinblastine sulfate, pyrimethamine, diethylstilbestrol diphosphate, or chloral hydrate. Environ. Mol. Mutagen., 22, 107-114.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
in vivo その他 (12)	negative	マウス雌 分裂中期II卵母細胞	腹腔内	200 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	
染色体異常 (異数性)(8)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Mailhes, J.B. and Marchette, F. (1994) Chemically induced aneuploidy in mammalian oocytes. Mutat. Res., 320, 87-111.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
in vivo その他 (13)	negative	マウス雌 分裂中期II卵母細胞	腹腔内	600 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	
染色体異常 (異数性)(9)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Mailhes, J.B. and Marchette, F. (1994) Chemically induced aneuploidy in mammalian oocytes. Mutat. Res., 320, 87-111.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・ サンプリングポイント
in vivo その他 (14)	negative	マウスF1 雌雄 骨髓細胞	腹腔内	600 mg/kg(抱水クロ ラルとしての値)	
染色体異常 (倍数性)(1)	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Xu, W. and Adler, I.D.(1990) Clastogenic effects of known and suspect spindle poisons studied by chromosome analysis in mouse bone marrow cells. Mutagenesis, 5, 371-374.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (1)	negative	negative	negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA98, 100		up to 5,000 ug/mL(抱水クロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Waskell, L. (1978) A study of the mutagenicity of anesthetics and their metabolites. Mutat. Res., 57, 141-153.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (2)	positive	-	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA98, 100		up to 2,000 ug/mL(抱水クロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Bruce, W.R. and Heddle, J.A. (1979) The mutagenic activity of 61 agents as determined by the micronucleus, Salmonella, and sperm abnormality assays. Can. J. Genet. Cytol., 21, 319-334.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (3)	positive(TA100)	positive(TA100)	-		TA100以外の株は活性、非活性条件下でnegative
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA98 TA100 TA1535 TA1537		up to 5,000 ug/mL(抱水クロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Haworth, S., Lawlor, T., Mortelmans, K., Speck, W. and Zeiger, E. (1983) Salmonella mutagenicity test results for 250 chemicals. Environ. Mutagen., suppl 1, 3-142.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (4)	negative	positive	-		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100		up to 300 ug/mL(抱水クロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Giller, S., Le Curieux, F. and Gauthier, L. (1995) Genotoxicity assay of chloral hydrate and chloropicrin. Mutat. Res., 348, 147-152.			二次文献 初期リスク評価書(2005)

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験 (5)	positive	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100 TA104		up to 2,000 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Ni, Y.-C., Wong, T.-Y., Kadlubar, F.F. and Fu, P.P. (1994) Hepatic metabolism of chloral hydrate to free-radical(s) and induction of lipid peroxidation. Biochem. Biophys. Res. Commun., 204, 937-943.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験 (1) 構造異常	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター 細胞CHED		up to 20 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Furnus, C.C., Ulrich, M.A., Terreros, C. and Dulout, F.N. (1990) The induction of aneuploidy in cultured Chinese hamster cells by propionaldehyde and chloral hydrate. Mutagenesis, 5, 323- 326.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験 (2) 異数性(1)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター 細胞CHED		up to 10 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Furnus, C.C., Ulrich, M.A., Terreros, C. and Dulout, F.N. (1990) The induction of aneuploidy in cultured Chinese hamster cells by propionaldehyde and chloral hydrate. Mutagenesis, 5, 323- 326.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験 (3) 異数性(2)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター 胚初代培養細胞		up to 250 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Natarajan, A.T., Duivenvoorden, W.C., Meijers, M. et al. (1993) Induction of mitotic aneuploidy using Chinese hamster primary embryonic cells. Test results of 10 chemicals. Mutat. Res., 287, 47-56.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(4) 異数性(3)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター細胞LUC2p4		up to 250 ug/mL(抱水クローラルとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Warr, T.J., Parry, E. and Parry, J.M. (1993) Comparison of two in vitro mammalian cell cytogenetic assays for the detection of mitotic aneuploidy using 10 known or suspected aneugens. Mutat. Res., 287, 29-46.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(5) 異数性(4)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	ヒトリンパ球		up to 250 ug/mL(抱水クローラルとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Vagnarelli, P., DeSario, A., DeCarli, et al. (1990) Aneuploidy induced by chloral hydrate detected in human lymphocytes with the Y97 probe. Mutagenesis, 5, 591-592.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(6) 異数性(5)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	ヒトリンパ球		up to 50 ug/mL(抱水クローラルとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Sbrana, I., Di Sibio, A., Lomi, A. et al. (1993) C-mitosis and numerical chromosome aberration analysis in human lymphocytes: 10 known or suspected spindle poisons. Mutat. Res., 287, 57-80.			二次文献 初期リスク評価書(2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(7) 倍数性(1)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター細胞LUC2p4		up to 500 ug/mL(抱水クローラルとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Warr, T.J., Parry, E. and Parry, J.M. (1993) Comparison of two in vitro mammalian cell cytogenetic assays for the detection of mitotic aneuploidy using 10 known or suspected aneugens. Mutat. Res., 287, 29-46.			二次文献 初期リスク評価書(2005)

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(8) 倍数性(2)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	マウス卵母細胞		up to 50 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Eichenlaub-Ritter, U. and Betzendahl, I. (1995) Cloral hydrate induced spindle aberrations, metaphase I 39 arrest and aneuploidy in mouse oocytes. Mutagenesis, 10, 477-486.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(9) 倍数性(3)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	マウス卵母細胞		up to 125 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Eichenlaub-Ritter, U., Baart, E., Yin, H. and Betzendahl, I. (1996) Mechanisms of spontaneous and chemically-induced aneuploidy in mammalian oogenesis: basis of sex specific differences in response to aneugens and the necessity for further tests. Mutat. Res., 372, 274-294.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(10) 倍数性(4)	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	ヒトリンパ球		up to 137 ug/mL(抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Sbrana, I., Di Sibio, A., Lomi, A. et al. (1993) C-mitosis and numerical chromosome aberration analysis in human lymphocytes: 10 known or suspected spindle poisons. Mutat. Res., 287, 57-80.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(1) 小核試験	—	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	チャイニーズハムスター 細胞C1-1		1 - 15 M x 10 ⁻⁴ (抱水ク ロラールとしての値)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Degrassi, F. and Tanzarella, C. (1988) Immunofluorescent staining of kinetochores in micronuclei: a new assay for the detection of aneuploidy. Mutat. Res., 203, 339-345.			二次文献 初期リスク 評価書 (2005)

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
in vitro その他(2) 小核試験	-	positive	positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	ヒトリンパ球		25 - 150 ug/mL (抱水クローラル)		
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	Migliore, L. and Fieri, M. (1991) Evaluation of twelve potential aneuploidogenic chemicals by the in vitro human lymphocyte micronucleus assay. Toxicol. In Vitro, 5, 325-336.			二次文献 初期リスク評価書 (2005)

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-4102
整理番号	
MITI番号	3-682
CAS番号	156-43-4
公示名称	アミノフェノールアルキル(C=1~2)エーテル
和名	p-フェネチジン
英名	Aniline, 4-ethoxy-
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験 (1)	Negative(Male) Positive(Female)	mouse (BDF1)/bone marrow	Gavage	male: 150-600 mg/kg female: 250-1,000 mg/kg	Single dose Sampling time: 24 hours after the dosage
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
			「新規化学物質に係る試験の方法について」およびOECDガイドライン474	yes	
	一次文献	4-エトキシベンゼナミンのマウスを用いる小核試験			二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Negative	Negative	Negative		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA98、TA102、TA97		25-5,000 ug/plate	DMSO	プレインキュベーション法
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	既存点検 微生物を用いた4-エトキシベンゼナミンの変異原性試験			二次文献
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Positive	Negative/Equivocal	Positive	比活性:3969.697	
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100/TA98		33-10,000 ug/plate (-/+S9)	DMSO	プレインキュベーション法
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1985		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type:Genetic Toxicology—Bacterial Mutagenicity NTP Study ID: 276346			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
染色体異常試験(1)	Positive	Positive	Positive		
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	CHL		0.1-0.5 mg/mL	DMSO	
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	一次文献	既存点検 4-エトキシベンゼナミンのチャイニーズハムスター培養細胞を用いる染色体異常試験			二次文献

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。

通し番号	S-4287
整理番号	
MITI番号	3-1014
CAS番号	80-15-9
公示名称	クメンヒドロペルオキシド
和名	2-ヒドロペルオキシ-2-フェニルプロパン
英名	2-Hydroperoxy-2-phenylpropane
別名	

in vivo試験

試験の種類	試験結果				
	結果	動物種/組織	ばく露経路	投与量	投与期間・投与頻度・サンプリングポイント
小核試験 (1)	Negative (Male/Female)	Moose B6C3F1/Peripheral Blood	Dermal	0.75-12 mg/kg	Dosing period: 90days, 90 times Sampling collection time; 24 hour
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
			NTP Standard Protocol		
	一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Micronucleus NTP Study ID: A82256			二次文献

in vitro試験

試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(1)	Positive	Negative	Positive	比活性66,667	TA1535のみ全てNegative
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA1535、TA1537、TA98		0.03-max.333 ug/plate	DMSO	プレインキュベーション法
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	1983		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity NTP Study ID: 009474			二次文献	
試験の種類	試験結果				
	活性	非活性	総合評価	強さの指標	備考
エームス試験(2)	Positive	Positive	Positive		eColi pKM101のみPositive(-/+S9)
	試験系		試験濃度	溶媒	試験手法
	TA100、TA98、eColi pKM101		5-200 ug/plate	DMSO	プレインキュベーション法
	試験実施年	試験実施者	テストガイドライン	GLP	備考
	2005		NTP Standard Protocol		
一次文献	NTP Study Type: Genetic Toxicology - Bacterial Mutagenicity NTP Study ID: A97584			二次文献	

※「Positive」に続くカッコ内の数字は、Positive/Negative が混在する場合の、positiveの菌株数を示す

※試験濃度は範囲で記載した。

菌株により範囲が異なる場合は、全菌株のうち試験した最高濃度にmaxを付した。